

報道関係各位

三菱地所株式会社

脱炭素社会の実現に向けて グループのCO₂排出総量削減 中長期目標を設定

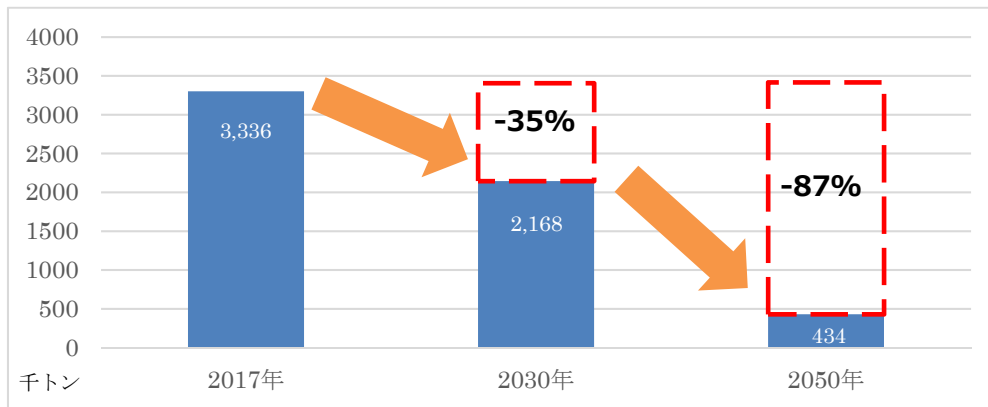
三菱地所は、脱炭素社会の実現に向けて、グループ全体の二酸化炭素に代表される温室効果ガスの中長期排出削減目標を策定しました。

CO₂排出削減 中長期目標
2017年比で、CO₂排出の総量^{※1}を
2030年までに35%、2050年までに87%削減

2020年以降の温室効果ガス排出削減に関する国際的な枠組みであるパリ協定は、気候変動による世界の平均気温の上昇を産業革命前に比べて2℃未満に抑えることを目標としています。

当社は、この度、パリ協定の2℃目標を達成するための科学的知見と整合した温室効果ガス排出量の削減目標であるSBT（Science Based Targets）を策定することにコミットし、今年夏迄にSBTイニシアティブ^{※2}より認定を取得する予定です。

今回策定した目標の達成に向けて、積極的に新たな技術を採用し、環境性能の高い不動産の開発を進めていくとともに、より一層、再生可能エネルギーの導入に取り組めます。



三菱地所グループでは、ESG（「Environment：環境」「Social：社会」「Governance：企業統治」）先進企業として気候変動対策に積極的に取り組んでおり、引き続き、事業活動を通じて、脱炭素社会だけでなく、持続可能な社会の実現を目指します。

■（参考）三菱地所グループの主なCO₂排出要因

scope1：熱供給事業、非常用発電機の運転による燃料（ガス、重油）の直接的な燃焼

scope2：購入した電気、熱、蒸気、冷水の使用による燃料の間接的な燃焼

scope3：その他事業活動に伴う排出（建築工事、販売した不動産の使用等）

※1 上記のscope1・scope2・scope3の合計量を削減

※2 SBTイニシアティブは、WWF、CDP、世界資源研究所（WRI）、国連グローバル・コンパクトによる共同イニシアティブ。企業に対し、気候変動による世界の平均気温の上昇を、産業革命前と比べ、最大でも2度未満に抑えるという目標に向けて、科学的知見と整合した削減目標を設定することを推進。

■ (参考) 三菱地所グループにおける CO2 削減に関する取り組み例

①ビル事業グループ

・オフィスビルにおいて、100%水力発電の電力メニュー「アクアプレミアム」を採用

東京・丸の内のオフィスビル「新丸ビル」で使用する電力の一部を、東京電力が提供する発電の際に CO2 を排出しない 100%水力発電の電力メニュー「アクアプレミアム」にて調達。

・オフィスビルへの燃料電池システム導入による CO2 排出量削減

東京・丸の内のオフィスビル「丸ビル」に、三菱日立パワーシステムズの「業務・産業用燃料電池システム(MEGAMIE)」を導入。燃料電池とマイクロタービンを組み合わせた高効率な発電システムにより、一般的な電力購入と比較して CO2 排出量の削減が可能。

・グリーン電力証書の利用

東京・大手町の三菱地所本社オフィス及び同・丸の内の三菱一号館美術館に於いて、太陽光、風力、地熱など環境に配慮した方法で発電されたグリーン電力を使用。

・㈱クリーンプラネットへの出資

http://www.mec.co.jp/j/news/archives/mec190128_cleanplanet.pdf

安価で環境負荷の少ない新水素エネルギーの実用化を目指す㈱クリーンプラネットへ出資。当社のまちづくりにおける新エネルギーの活用を検討。

・東京駅前常盤橋プロジェクト A 棟 SITES 認証取得予定

http://www.mec.co.jp/j/news/archives/mec180220_tokiwaA.pdf

物件外構の親水空間や広場等で使用する電力を 100%グリーン電力とする等の環境負荷軽減の取り組みを行っており、国内の都心複合ビル開発プロジェクトでは初となる SITES®[※]認証取得を目指す。

※敷地内のランドスケープに対して、設計デザイン（水資源・土壌・植栽の保全、人の健康とウェルビーイング）、建設（資材の再利用、施工時の空気環境保護）、運用（管理計画、利用者への説明）の3つの観点から環境負荷低減の取組を Green Business Certification Inc.TM（GBCI®）（米国）が評価・認証する制度。

②生活産業不動産事業グループ

・大規模施設へのソーラーパネルの設置

アウトレットや物流施設等、大規模施設の屋根にソーラーパネルを設置。共用部での利用や売電を通じ、CO2 削減に貢献。

例：・あみプレミアム・アウトレット[共用部に自家発電の電力を利用]

https://www.premiumoutlets.co.jp/pressroom/pdf/160318_ami.pdf

・ロジクロス福岡久山等[売電]

③住宅事業グループ

・三菱地所レジデンスのザ・パークハウスで「低炭素建築物」認定取得物件を供給

三菱地所レジデンスの分譲マンションブランド「ザ・パークハウス」の一部物件において、熱効率の高い空調システムや家庭用燃料電池を導入することにより「都市の低炭素化の促進に関する法律」に基づく「低炭素建築物」認定を取得。（2017年より実施）

・分譲マンションにおける太陽光発電パネル設置「solecco（ソレッコ）」システム

<http://www.mec.co.jp/j/news/archives/mec120830.pdf>

高圧一括受電と組み合わせ、原則総戸数 40 戸以上のファミリー向け分譲マンションに太陽光発電パネルを設置。発電電力はマンション共用部に使用され、共用部の電気料金を含む管理費の削減効果も期待されるシステム。

④ホテル・空港事業グループ

・みやこ下地島空港ターミナルのネット・ゼロ・エネルギービル (ZEB) の取り組み

http://www.mec.co.jp/j/news/archives/mec171011_shimojishima.pdf

沖縄県宮古島市・下地島空港で開発した旅客ターミナルビルについて、国が基準とするビルと比較して、68%一次エネルギー消費（化石燃料消費等）を削減。全国の空港ターミナルとして初めて経済産業省資源エネルギー庁の「ZEB ロードマップ」ZEB Ready ランク、BELS（建築物省エネルギー性能表示制度）で最高ランクの認定を受領。

※三菱地所グループの環境への取り組みの詳細は、下記よりご確認いただけます。

<http://www.mec.co.jp/j/csr/environment/index.html>

以上